

令和元年度食品リサイクル推進マッチングセミナー

開催結果

開催概要

項目	内容
開催日時	令和元年10月16日（水）13:00～16:30
開催場所	電気ビル共創館 3階カンファレンスルームA （福岡市中央区渡辺通2-1-82）
参加人数	30名（講師および同行者7名を除く）
主な実施内容	食品リサイクル関連最新情報（環境省） 食品リサイクル／食品ロス削減に関する事例紹介 質疑応答・パネルディスカッション 情報交換会（来場者間の名刺交換・情報交換）

事例発表者

業界	事例発表者名
食品関連事業者	ロイヤルホールディングス株式会社 CSR推進部 部長 成田 鉄政 氏
再生利用事業者	平木工業株式会社 食品リサイクルプラント担当者 木村 好男 氏
地方公共団体	福岡市環境局 循環型社会推進部 事業系ごみ減量推進課長 城戸 裕子 氏
業界団体	一般社団法人 全国食品リサイクル連合会 専務理事・事務局長 松岡 力雄 氏

事例紹介の結果：①食品関連事業者、再生利用事業者

【食品関連事業者】

ロイヤルホールディングス株式会社

《講師》

ロイヤルホールディングス株式会社
CSR推進部 部長 成田 鉄政 氏

《事例の概要》

- ロイヤルホールディングス株式会社は、福岡県・佐賀県・熊本県の一部の外食店舗から発生する食品残さを、再生利用事業者（有鳥栖環境開発総合センター）で肥料化。当該肥料は（株）トワードおよび（株）オーシャントラフィックが玉葱などの生産に使用し、当該野菜を福岡県にあるロイヤルホールディングス（株）のセントラルキッチン等に納入することで、リサイクルループを実現。（平成24年4月に再生利用事業計画の初回認定を取得）
- その他、同社では品質に問題のない食品の子ども食堂への提供、店舗利用者に対する啓発等の取組等を実施。



《成田氏ご講演の様子》

【再生利用事業者】

平木工業株式会社

《講師》

平木工業株式会社
食品リサイクルプラント担当者 木村 好男 氏

《事例の概要》

- 平木工業株式会社は再生利用登録事業者（H28年5月登録）であり、食品排出事業者（製造業者、卸売業者、小売業者、外食業者）から食品廃棄物を回収して液体飼料を製造し、養豚農家に提供。
- 今後、焼酎かすや家畜糞尿、飼料化不適合物を主材料として、メタン化を実施することを検討中。
- 再資源化の工程を阻害する異物混入を防ぐため、排出事業者に対して混入防止の呼びかけを実施。



《木村氏ご講演の様子》

※ 事例紹介の後、講師と来場者の間で活発な質疑応答が行われた。詳細はP.5に記載

事例紹介の結果：②地方公共団体、業界団体

【地方公共団体】

福岡市

《講師》

福岡市環境局 循環型社会推進部
事業系ごみ減量推進課長 城戸 裕子 氏

《事例の概要》

- 福岡市では、事業系食品廃棄物の減量・リサイクルを積極的に推進している。平成21年度には「福岡市事業系食品循環資源リサイクル研究会」を設置し、食品リサイクルの在り方および方向性を検討した。また、その結果を踏まえ、ロイヤルホスト(株)らと連携して食品リサイクルループのモデル事業を実施した。現在は、事業系ごみ資源化推進ファンドの設置・活用、その他リサイクル施設への誘導施策（排出事業者への立ち入り指導・啓発等）を実施。
- 食品廃棄物の発生抑制の取組としては、「福岡エコ運動協力店」と連携した食べ残し削減の啓発や「完食宣言」キャンペーン、市内のフードバンク団体と連携した「フードバンク活動啓発事業」等を実施。



《城戸氏ご講演の様子》

【業界団体】

一般社団法人 全国食品リサイクル連合会

《講師》

一般社団法人 全国食品リサイクル連合会
専務理事・事務局長 松岡 力雄 氏

《事例の概要》

- （一社）全国食品リサイクル連合会では、登録再生利用事業者による食品廃棄物の不適正な転売事案を受け、優良な廃棄物処理業者の育成・拡大を目的として「優良業者育成業界自主基準」を制定。
- 現在、同基準に基づいて会員企業における取組状況の評価および優良事業者認定を進めており、同認定の取得状況は、同会が設置するウェブサイト公開される予定。
- 同会の正会員に対しては、入会3年以内に同優良認定審査に合格することを旨とするを宣言することを必須としている。



《松岡氏ご講演の様子》

※ 事例紹介の後、講師と来場者の間で活発な質疑応答が行われた。詳細はP.5に記載

質疑応答の結果（抜粋）

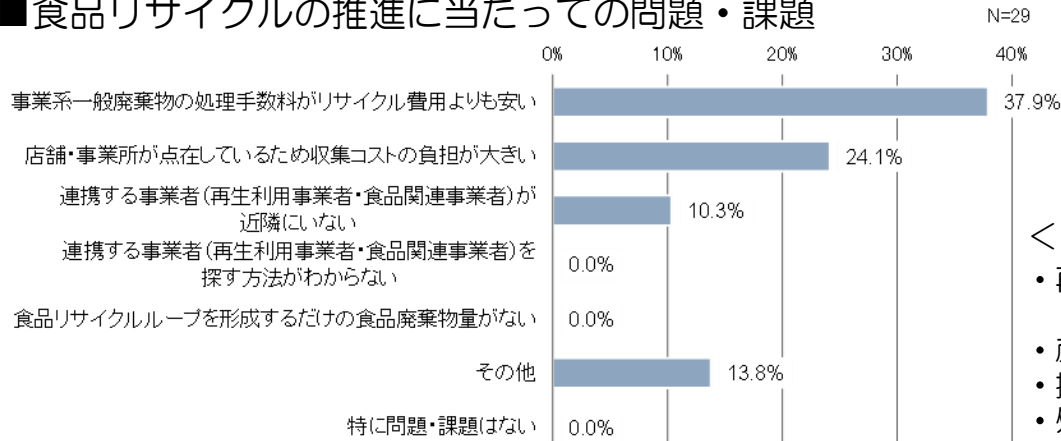
質問	回答
<p>食品関連事業者、再生利用事業者、自治体が協働して食品リサイクルを推進するにあたり、重要となる点は何か</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 経営層が食品リサイクルの重要性を理解することが重要である。現在、食品リサイクル・食品ロス削減の機運が高まっているが、行政にはより情報発信に注力していただきたい。（ロイヤルホールディングス株式会社 成田氏） • 排出事業者・再生利用事業者・自治体間の情報交換の機会を増やすことが重要であると考えている。自治体に対しては、養豚農家に対する食品リサイクル飼料の積極的な採用の呼びかけや、補助の充実をお願いしたい。（平木工業株式会社 木村氏） • 啓発活動をいかに効果的な形で継続するかが重要と考えている。排出事業者や再生利用事業者の自主的な取組に関する情報を展開することも重要である。福岡市では、「事業系ごみ資源化推進ファンド」を設立してリサイクルの支援を行っており、今後も継続したい。業界団体と連携して取組を進めることが重要と考えている。（福岡市 城戸氏） • 今後は市町村の取組が重要になると考えている。福岡市では、ごみ処理手数料減免制度の廃止による増収を原資に、ファンドを設立し、資源化施設整備支援を行っているというお話を伺った。このような取組は食品ロスの削減にも繋がるものであり、こうした市町村の積極的な取組に期待したい。また、国に対してはごみ処理料金の適性化に向けた働きかけをお願いしたい。自治体の処理料金が低く設定されており、再生利用事業者は採算の合わない価格での処理を余儀なくされている。まずはモデル地区を設定し、当該地区から発生する食品残さを適正料金でリサイクルする等の取組を実施してはどうか。（一般社団法人 全国食品リサイクル連合会 松岡氏）

《質疑応答の様子》



来場者アンケート結果（抜粋）

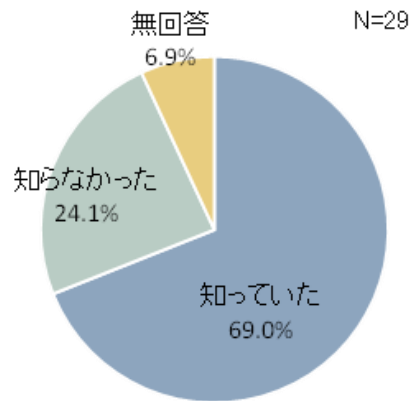
■食品リサイクルの推進に当たっての問題・課題



＜「その他」の自由記述内容＞

- ・再生したエコフィードの出先が少ない。情報がほしい。（環境コンサルタント）
- ・産業界全体の理解が少ない（再生利用事業者）
- ・排出者への訴えかけが困難（行政（市区町村））
- ・処分場の受入に左右される（再生利用事業者）

■再生利用事業者の優良事業者認定制度の認知状況



＜認定制度について考えられる活用方法＞

- ・再生利用事業者認定を取得し、食品関連事業者に対するアピールポイントとする（再生利用事業者）
- ・排出業者へのアピール（再生利用事業者）
- ・食品リサイクル事業者を探す時に活用（食品関連事業者）
- ・排出事業者への周知を実施（行政（市区町村））
- ・委託先を検討する際、判断材料とする（行政（市区町村））

■セミナーの良かった点・改善点

- ・福岡市の取組事例紹介が良かった。他の自治体にも紹介してもらいたい（再生利用事業者）
- ・幅広い方のお話が聞かれて良かったと思います（再生利用事業者）
- ・情報交換会があり、参加者の業種が一目でわかるようになっている点（再生利用事業者）
- ・ロイヤルホールディングスさん、優良排出者の方と、名刺交換できて良かったです（再生利用事業者）
- ・排出事業者にもっと多く参加してほしい（再生利用事業者）